

工業高校生の 新規入職について

広島市立広島工業高等学校
建築科 盛原志帆

発表構成

1 高校生向けアンケート集約

- (1) 入学当初の希望進路(就職、進学) [本校建築科所属生徒]
- (2) 現在希望している進路 [入学時大工希望者]
- (3) 現在希望している進路 [入学時大工以外希望者]
- (4) 大工のイメージを教えてください

2 教職員向けアンケート集約

- (1) 担い手不足にかかる現状・課題、
目指すべき姿について
- (2) (1)を踏まえ、現在、教育現場で取組んでいること
- (3) // 業界(団体)に取組んでほしいこと
- (4) (1)を踏まえ、10年後に向け、教育現場で取組むべきこと
- (5) (4) // 業界に取組んでほしいこと
- (6) (1)を踏まえ、25年後に向け、教育現場で取組むべきこと
- (7) (6) // 業界に取組んでほしいこと

3 技能向上に向けた各種取組内容

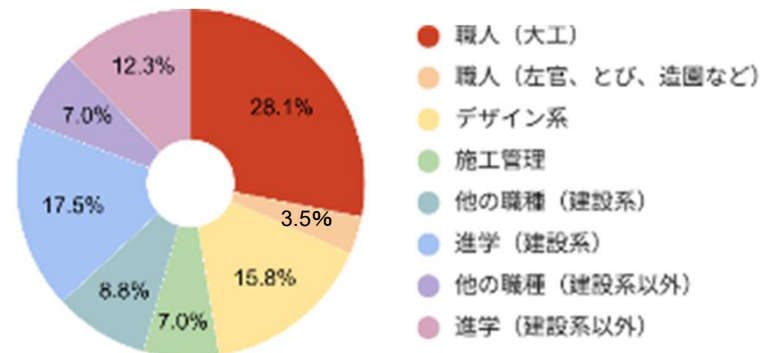
年間スケジュール

4 新規入職者増加に向けたご提案

I 高校生向け アンケート集約 (1/4)

本校建築科所属生徒の

(1) 入学当初の希望進路(就職、進学)



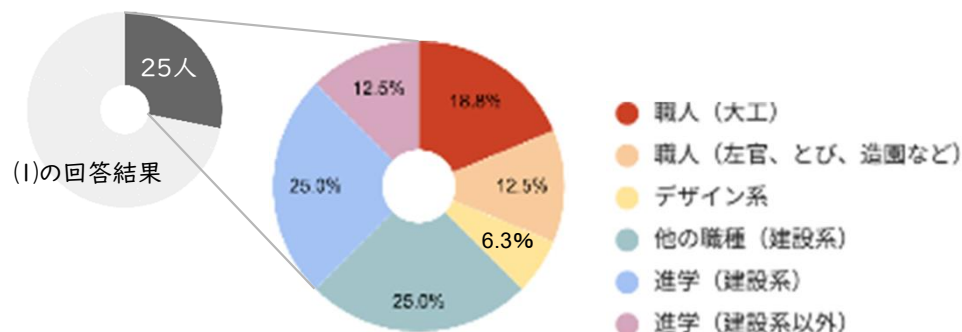
* 入学当初(1~2年前)を振り返っての回答

- ・職人(大工)希望は約3割
- ・建設系職種や進学(建設)希望は全体の約8割
- 《大工を希望した理由》
身体を動かして働きたい
家を建ててみたい
木材加工が好きだから

実施日(対象): R7.2月(3年生29人)(2年生28人)
R7.5月(2年生31人)

(2) 現在希望している進路

* (1)で[職人(大工)]を選択した25人の現在の回答

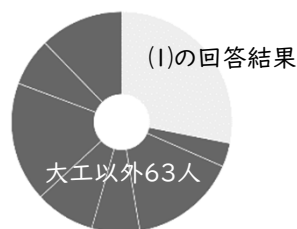


- ・職人(大工)希望は更に2割弱へ
- ・進学(建設)、他の建設系職種が半数
- 《大工を希望しない理由》
私は現場仕事ができないと思った
建築業界の幅が広く選択が増えた
色々体験して面白いと感じる職に出会えた
建築関係よりも他のやりたいものを見つけた

I 高校生向け アンケート集約 (2/4)

(3) 現在希望している進路

* (1)で[職人(大工)]以外を選択した63人の1~2年後の回答



職人(左官、とび、造園など)

- ・造園の資格に興味があって取ろうと思っている

デザイン系

- ・もののデザインを考えるのが好きだから

施工管理

- ・責任感があり、楽しそうだから
- ・職場体験でいいと思った、他の職種も気になる
- ・管理する仕事に就いて工事全体の流れを知りたい
- ・現場仕事を覚え少しでも早く会社の役に立ちたい
- ・勉強をしているうちに施工管理に興味を持った
- ・実習をして一番楽しく自分に向いていると思った

他の職種(建設系)

- ・営業がしたい
- ・室内で作業したい

進学(建設系)

- ・将来お金を稼ぎたい
- ・建築系の資格を取りたい
- ・より深く建築を学びたい
- ・親に行った方がいいと言われた
- ・工業高校の教員免許の取得を目指している

進学(建設系以外)

- ・ゲームをしたいから[情報専門]
- ・建築は体力もいる、コミュニケーション能力が必要、手先も器用じゃないと駄目だと思った
- ・他にやりたい事が出来た
- ・親がやっている仕事に就きたかった

他の職種(建設系以外)

- ・変化する状況に臨機応変に働きたいと思った
- ・他の企業に興味があるから
- ・自分に合っていると思った
- ・車が好きだから

I

高校生向け アンケート集約 (3/4)

(4) 大工のイメージを教えてください

マイナスイメージ(主な回答)

力仕事が多い
上下関係が厳しい
怖い
一人前になるまで時間がかかる
難しそう
肉体労働 重労働 きつい
辛い
繊細な技術が必要
ブラック 休みが少なそう
大変そう
女子は職方には抵抗がありそう
疲労が凄そう
暑い 臭い
安月給 低賃金 収入が少ない
肉体的精神的心身ともに大変そう
高齢者が多い 等

プラスイメージ(主な回答)

やりがいがある 達成感
形に残る仕事
楽しそう
器用 手際が良い
筋肉がたくさんついている
力が強い 体が強そう
カッコいい イケメン 尊敬する
ザ職人技 凄技 高性能な技術
技術が身に付く 手に職
定時で帰れそう
当たり前のように作業する姿が格好いい
知識が深い 視野が広がる
頼りになる 努力している人が多い
人々が安心して暮らすための家作り 等

希望すれば誰でもなれる …?

高校生向け アンケート集約 (4/4)

実態・要約

職人(大工)希望は最終的に“3割→1割未満”
大工入職に対する理解不足
他職種への魅力発見 等 } → 進路変更へ

職人(大工)を選択しない理由《マイナスイメージ》
体格差により仕事に向き不向きの要素あり
技能の習得が難しそうで大変
現行の労働条件が悪影響

職人(大工)を選択する理由《プラスイメージ》
努力家で頼りになり尊敬する
高度な技能が身に付く
達成感の感じやすい職務内容

技能職 ⇒ 捉え方によりプラスにもマイナスにもなる

2 教職員向け アンケート集約 (1/8)



広島市立広島工業高等学校

アンケート対象

* 工業高校生の知識・技能指導等に携わる指導者

教職員 広島県内	Aさん	勤務地: 広島 年齢: 50代 担当: 木材加工・施工・構造	教職員 広島県外
	Bさん	勤務地: 広島 年齢: 50代 担当: 木材加工・施工・構造	
	Cさん	勤務地: 広島 年齢: 60代 担当: 進路指導・木材加工	
	Dさん	勤務地: 広島 年齢: 50代 担当: 建築製図・計画・設計	
	Eさん	勤務地: 広島 年齢: 50代 担当: 進路指導・木材加工	
	Fさん	勤務地: 広島 年齢: 30代 担当: 木材加工・施工・構造	
技能指導 講師	Gさん	勤務地: 茨城 年齢: 50代 担当: 木材加工	技能指導 講師
	Hさん	勤務地: 山口 年齢: 50代 担当: 木材加工	
	Iさん	勤務地: 愛媛 年齢: 50代 担当: 木材加工	
	Jさん	勤務地: 広島 年齢: 70代 専門: 彫刻・木材加工	
	Kさん	勤務地: 広島 年齢: 60代 専門: 木材加工	
	Lさん	勤務地: 広島 年齢: 50代 専門: 木材加工	

2 教職員向け アンケート集約 (2/8)



広島市立広島工業高等学校

(1) 担い手不足にかかる現状・課題、目指すべき姿について

現状と課題(主な回答 以降同様)

教育現場から見た業界において

Aさん

- ・労働力不足や作業の自動化(AI)など、様々な要因による職人の**技能力低下**
- ・賃金の低下による雇用に対する**魅力低下**

Cさん

- ・一人親方の元に弟子入りすると、給料は日当払い、**社会保険の補償がない**場合が多い
- ・社員大工も会社規模により**保険形態が異なる**
- ・会社が一部負担する**年金制度**は可能か
会社の負担が大きいと国の**補助金制度**があれば

Dさん

- ・住宅建設工法の主流が軽量鉄骨、2×4等に移る中
熟練工の必要な在来工法の着工件数が減少

Eさん

- ・成り手が減り、**伝統的技能が継承されにくい**
- ・**女性**がなかなか**活躍**できない

Iさん

- ・企業が受注しても施工する職人が不足、着工の遅れや工事の遅延が起きている

Jさん

- ・現場での技術養成は使い捨て技術者を増やす
- ・公の場で**基本を習得**させる事が必要

Lさん

- ・保険や休日や給与など、働く環境の改善

教育現場において

Bさん

- ・**職業観や勤労観の醸成不足**、組織の一員よりも**個としての自分を優先**する世代。
- ・従来のやり方では通用しないことは認識しつつ、どのように指導・育成すればよいか未だ模索中

Gさん

- ・少子化問題より高校入学生の人数が減少し、本県立高校でも多くの高校が**毎年定員割れ**
- ・ものづくりの楽しさや各校の魅力を中学生に広める**アピールが足りない**

教職員の働き方において

Fさん

- ・インターンシップの受入れ企業や就職先の開拓や多種多様な出前授業の実施を増やしたいが、業務が多忙のため企業へのアポ取り等の時間が満足に確保できないのが現実

2 教職員向け アンケート集約 (3/8)



広島市立広島工業高等学校

(1) 担い手不足にかかる現状・課題、目指すべき姿について

目指すべき姿

Aさん

- 時代に適応した一般住宅に特化する大工
- 技術を駆使して工期とコストを削減する
- 技能を継承する大工
- 卓越した技能を継承しオンリー1を目指す
- 以上、大工職の2極化を進め、大工単価を上げる

Cさん

- 労働環境を良くするために
- (例)仮設トイレ、ぼっとんから洋式へ
- 週休2日の徹底
- 国が推奨する取組みを民間も
- 住宅単価を上げる
- 施主の負担が多い(国からの補助金希望)

Eさん

- 人材の育成に投資すべき
- 国や企業など様々な機関で取り組みを
- 原材料の木材に代わる材料の開発や採用
- 技能を求めず、コスト削減、女性も容易に
- (例)人口木材、間伐材のブロック、竹材 等

Fさん

- ・企業と教育現場をつなぐ役割がどこかの機関に
- 確立されることで、よりスムーズな交流が可能となる

Gさん

- ・技術を継承しつつ新しい取組みに向かう工業高校の姿を県や学校が推進する
- ・建築に興味を抱かせることで建設業界に進む生徒の数を増やす

Hさん

- ・若手を指導する技能者を育成する

Iさん

- ・専門職を単独で行うのではなく、複数の専門業種を一人で担う多能工職人が必要

Kさん

- 将来プランをわかりやすく
- (社員)大工の生涯賃金モデル作成
- 資格取得に応じて報酬
- 1級取得で月数万とか
- 賃金と名誉の回復
- (例)ドイツでは医者と同一級

Lさん

- 教育制度の確立
- 徒弟制度の考え方を無くし、会社やグループで働きながら後継者を育成する

2 教職員向け アンケート集約 (4/8)



広島市立広島工業高等学校

(2) (1)を踏まえ、現在、教育現場で取組んでいること

Aさん

- ・経験(前大工)を活かし、一般住宅を生業とする**大工業者と連携**し、実際の現場にて建前等の**現場見学**を実施する。
- ・生徒の観察と現場の状況を見極め、**生徒と相性の良い大工に繋げる**ことが重要。

Bさん

- ・職業観の醸成に向け、インターンシップ等の体験や企業側の配慮を周知する指導、組織の中での**自分の役割を見出す**指導を行う。
- ・生徒の居心地のいい空間を作るだけでなく、緊張感のある空間を臨機応変に設定し、**ケジメを意識させ**つつ授業や部活動に取り組む。

Cさん

- ・2年次に進路選択のためのインターンシップや、3年次に企業との**ミスマッチを防ぐ**ため応募前職場体験を実施
- ・企業や団体による**出前授業**や**社会人講話**
- ・ものづくりマイスターによる実技指導を年間30回以上実施

Dさん

- ・1年次に木材加工の**基礎的な技術**と道具についての基本的な学習内容を授業展開

Fさん

- ・部活動により**各種競技大会**(建築大工)に出場し、技能向上や職業観の育成を図る
- ・月一度の**広島鮑会**(削ろう会)に参加
- ・地域の工務店や職人の方々と連携して希望生徒に応じて随時体験的学習を実施している

Gさん

- ・**資格取得**の推進
- ・学校のホームページの定期的な更新

Hさん

- ・思いはあるが、具体的には何も取り組めていない

Iさん

- ・技能検定の様々な職種に挑戦させる
- ・多能工職人を生徒に認知させ、進路選択の一部として周知する

Jさん

- ・手道具の基本的な使い方指導

Lさん

- ・**技能検定**の受験指導

2 教職員向け アンケート集約 (5/8)



広島市立広島工業高等学校

(3) (1)を踏まえ、現在、国や業界(団体)に取り組んでほしいこと

Aさん

- ・若手技能者の**養成グループ**をつくり、一定期間は
そのグループ内で共働して若手を育成し、期間を
終えたら**希望する親方に所属**するというシステム
- ・国や企業から給与面や社会保険等の補助を

Bさん

- ・新人の**育成方針**や**プログラムの共有化**
中小零細企業では難しいため建設業界全体で後継
者育成に取り組む形
- ・企業が教育現場に求めることは何か
話し合いの場や**相互の協力体制**を確立したい

Dさん

- ・木造大スパンラーメンフレーム等の**新技術の研修**

Fさん

- ・気軽にだれでも永続的に参加できる**“技能塾”**のよ
うな環境が必要。例：広島鮑会(削ろう会)
- ・**熟練技能者から**刃物の調整や使い方など、様々な
指導を受けて**技能向上心を高める**
- ・**他校との交流**により競争心や仲間意識を高めて、
一層ものづくりへの意欲促進に繋がる

Hさん

- ・若手の指導を嫌がるベテラン職人も多いため、
指導する側の思いや意見にも耳を傾けてほしい

Iさん

- ・学生時代に建築業の**様々な職業**(建設業29業種)
を**体験できるシステム**や、多能工職人を育成できる
ようなシステムを多数構築してほしい
- ・**技能検定受験料**をもう少し**安価**にしてほしい
事例：建築大工3級、10,700円(学生受験時)
2級、21,300円(//)

Jさん

- ・業界全体で人材育成に取り組んで欲しい
一人親方では厳しいと思います
(仕事をしながら若手育成が同時進行となるため)

Lさん

- ・高校に求人を出してほしい
(入職時の選択肢を増やしてほしい)

2 教職員向け アンケート集約 (6/8)



広島市立広島工業高等学校

(4) (1)を踏まえ、10年後に向け、教育現場で取組むべきこと

Aさん

- ・急速なAI発達により自動化が予想される中、**様々な事を吸収し活用できる能力**を育成する
- ・感覚を資料として共有することで時間を短縮して知識を増やし、その知識の活用方法を研究する必要がある

Bさん

- ・10年前と現在の**企業側が求める人材像**は多様性に対応し大きく**変化**し続けるため、近い将来のビジョンを見据え、今何が必要か常にキャッチしつつ基本的な人材を育成する

Dさん

- ・木材加工と言えどプレカットのみならず、積極的に最先端の技術やICT(DX)を活用し、精度と効率化を図り、新しい視点での大工像を意識付ける

Fさん

- ・教職員が現場の状況や求める人材などといった情報を得ることで、建設業界と教育現場との認識のズレがない状態にするよう努める必要がある

Gさん

- ・工業高校における中学生へのアピールや**出前授業**の実施、**資格取得**の推奨

Hさん

- ・高校の現場では、**現場見学**の機会を増やす。
(予算や県内の現場でないと許可が出ないなど、問題があるのが難点)

Iさん

- ・**小中学生に向けて**建築業の**魅力を発信**する
(高校の生徒数確保にもつながる)

Jさん

- ・手作業が好きになるような人材育成
手作業が評価される様な取組み

Lさん

- ・現場の実態に合わせた実習を行う
- ・現場実習への協力や出前授業の実施

2 教職員向け アンケート集約 (7/8)



広島市立広島工業高等学校

(5) (4)を踏まえ、10年後に向け、国や業界(団体)に取り組んでほしいこと

Aさん

技能に対する単価設定により給料アップ

→ **作業毎の単価設定**、技能者に支払われる対価の全国統一価格と言えるベースの構築(例:市役所や公的機関の手数料など)

Bさん

産学連携を活用

→ **情報共有**を十分にしたい

Dさん

- ・VUCA(先行きが不透明で将来の予測が困難な状態)の世の中で10年後の技術革新は予測できないからこそ、発想力、**問題発見能力**を育む
- ・研修やトレーニングの実施
- ・中学校での授業プログラムは情報系が多いためものづくりの経験が少なく、楽しさを知らない

Fさん

- ・高校生に向けての取組だけでは手遅れ、**小中学校にも対策**が必要(中学の技術のものづくり離れ)
- ・DXや最新技術が進歩する中、AIに変えられぬのは技能、根本に立ち返り技能の大切さを守ってほしい

Gさん

- ・公立高校では予算面や規則が厳しく思うように取り組めないため、(教育現場の場合)県教育委員会への働きかけが必要

Iさん

- ・**小中学生に向けて**の建築業の**魅力発信**を高校と協力して行ってほしい(同時に小中学校に訪問する、資材や費用の協賛等も含めて)

Jさん

- ・機械化と手刻みの使い分けを融合

Lさん

教育する余裕がある工務店の増加

→ 資材の価格高騰やHMとの競争で人件費が削られ、一人親方は後継者を育てにくい

資格取得の活用

→ 高校で技能検定を受けた生徒が、資格を利用し就職や給与アップにつなげる

資格制度の導入

→ 業界では資格が無いと仕事に就けないといった厳しい法規制が必要では…

2 教職員向け アンケート集約 (8/8)



広島市立広島工業高等学校

(6) (1)を踏まえ、25年後に向け、教育現場で取組むべきこと

Aさん

・臨機応変に対応でき、問題に対峙し突破できる**解決能力**、情報に精通し**学び続ける素養**のある人材育成

Bさん

・個の力が組織の中で生かせる人材の育成
・何かの職に特化した人材の育成

Fさん

・工業教育に携わる教職員対象に、業界から活動報告、労働環境の実態等の周知、新技術等の**研修会**を定期的(月1回程度)に設ける

Gさん

・企業やものづくりマイスターなどを活用した実践的な体験活動が可能なカリキュラムや行事の作成

Iさん

・業界の最新状況に沿うため業界団体と情報交換をしながら生徒を育成したい

Jさん

・現場に合った教育を行う

(7) (6)を踏まえ、25年後に向け、国や業界(団体)に取り組んでほしいこと

Aさん

人材育成は1on1から複数人体制へ
→ 業界の人材育成について、複数人で指導を行う
将来よりも目先の豊かさに魅力を
→ 今の豊かさが将来につながるビジョンへと

Bさん

・将来のより良い国づくりのために**関係機関が協力**し合って1歩1歩確実に進める必要がある

Iさん

・教育現場へ最新の状況を流していただき、将来の建築業の担い手を共に育成してほしい

Hさん

・色んな競技大会を開催してほしい

* :建築科の取組、 :建築部の取組、 :取組内容



4 新規入職者増加 に向けたご提案



広島市立広島工業高等学校

新規大工入職者への補助金

就業手当、福利厚生等の補助金制度確立

インターン制度の導入

入職後、若手技能者が一定期間共働き、その後希望する親方の元へ就職する

資格取得に応じた報酬

自己研鑽、業務内容の範囲拡大等のため資格取得を促し報酬を与える
(技能検定、施工管理技士、建築士など)

生涯賃金モデルの作成

将来の人生設計プランが立てやすく安心

建設業の魅力発信について

小中学生へのものづくり魅力発信活動等を高校と共に実施

技能検定受験への支援

受験料の低減により受験者増加や技能者担い手確保に期待できる

国や建設業界への導入・検討事項

学びやすい環境作り

誰でも自由に参加できる“技能塾”の存在

建設団体による企業との架け橋

インターンシップや就職活動等の実施時に企業と教育現場を繋ぐ存在

⇒ 企業と教育現場の実態を把握し、連携を図っていただく重要な役割

様々な職業の体験的学習システム

建設業29業種を体験し、多能工職人育成を促進する

教職員向け研修・意見交換会の実施

業界主催の研修会の実施(月1回程度)

⇒ 活動報告や労働環境の実態等の周知
情報共有や意見交換会の開催(年2回程度)
⇒ 都道府県単位で定期的の実施し、相互のニーズに合った取組に期待

教育機関への導入



子どもたちを育てる **教育現場**
ものづくりの伝統を担う **建設業界**

ともに助け合い
力を合わせることで

未来のものづくりを支える
“日本の宝”を大切に育てていきたい